

經濟論叢

第九十五卷 第四號

- シェーカーズの日常生活……………穂積文雄 1
- 朝鮮の社会主義……………木原正雄 27
- 恒常在高法の批判的考察(1)……………中居文治 49
- 不働費計算・理論の史的考察(1)……………西村明 61
-

昭和四十年四月

京 都 大 學 經 濟 學 會

シェーカーズの日常生活

穂 積 文 雄

わたくしは、さきに、本誌上において、シェーカーのひとびとについて、いささかうかがうところがあった。わたくしは、まず、イギリスにおけるシェーカーのなりたちをたずねた。わたくしは、ついで、かれらにしたがって海をわたってアメリカに行った。そして、そこにおいて、かれらが、大なる宗団にまで発展しゆくさまをながめた。それから、わたくしは、さらに、その宗団の教義・実践原理をきわめ、すすんで、その組織をあきらかにした。しかしながら、組織は、それが、どうなっているかをみるだけでは、まだ、あきらかにならない。それが、どうごくかをみることによって、はじめて、あきらかとなる。だから、わたくしは、さらに、すすんで、それをみねばならない。しかるに、そのうごきは、その日常生活においてあらわれる。したがって、それが、どうごくかをみるためには、その日常生活をみねばならない。すくなくとも、そうするのが、もっとも、有効適切である。そう、かんがえられる。そこで、わたくしは、さきの、わたくしの論稿のおわりにおいて、それをこころみであるろう、と、約しておいた。いま、わたくしは、本稿において、その約をはたすであろう。

シェーカーの教義・実践原理および組織が確立したのは1792年、ルシイ・ブライトの主宰の下においてであった。その以後も、シェーカーズは、連綿、今世紀のはじめまで、つづいた。それは、けっして、みじかいとはいえない。また、その組織は、北アメリカ大陸の諸所に確立せられたもの18におよんだ。それは、けっして、すくないとはいえない。ところで、そのように、ひろい大陸の各地に、そのようにながれ期間、存続する場合、その日常生活は、ときにより、ところによって、ことなるところなきを得ないのではなからうか、と、かんがえ

られるかもしれない。ところが、事實は、そうではない。そういってもよい。そうおもわれるのである。もとより、ごく、こまかな点にいたっては、ときとところによって、ことなるところが全然ない、と、いえば、それはいいすぎになるかもしれない。しかし、日常生活の大体においては、ほとんどことなるところはない。そういっても、かならずしも、いいすぎにはならない。いわんや、シェーカーズのシェーカーズたる所以のところをいたっては、もとより、なんらことなるところはない。そういってもよい。わたくしは、あえて、そういう。それでは、どうして、わたくしは、あえて、そういうか。そう、というひとがあれば、わたくしは、こたえるであろう。それにはそういうだけの理由がある、と。その理由というのは、ほかでもない。こうである。わたくしは、ここに、シェーカーをとりあつかった3冊の書物を知っている。その一つは、ジャイルスの「ピリーバーズ」(*Believers*, by Janice Holt Giles, 1957)である。それは、1810年ころのケンタッキーはサウス・ユニオンズのシェーカーズを対象としている。つぎは、ノイエスの「アメリカ社会主義史」(*History of American Socialisms*, by John Humphrey Noyes)が引くところのマクドナルド(Macdonald)の記録である。それは1842年から1843年にかけてのレバノンの本拠におけるシェーカーズを対象としている。最後にあげられるのはノルドホッフの「合衆国における共産社会」(*The Communistic Societies of the United States*, by Charles Nordhoff, 1875)の手記である。それは1870年代の各地のシェーカーズを対象としている。かく、この三つのものが対象としているところのシェーカーズは、たがいに、その、ときと、ところを、ことにする。しかるに、そこにしるされているかれらの日常生活は、ほとんど、ことなるところがない。大同小異である。それだからである。

しかしながら、かんがえてみれば、それは、まことに、おどろくべきことに属する。そういえるかもしれない。しかしながら、それにもかかわらず、それは、やはり、事實である。厳然たる事實である。そして、よく、かんがえてみれば、あるいは、それは、おどろくにあたらないことであるかもしれない。い

な、おどろくことのほうが、かえって、おかしいのではないか。そうも、おもわれる。けだし、周知のごとく、アメリカ大陸においては、かず多くの、ユートピアが、かつ、おこり、かつ、ほろんだ。それは、あたかも、ながれにうかぶうたかたの、かつ、むすび、かつ、きえるに似たものがある。その中にあって、シェーカーズが、ひとりよく、3世紀にわたり、100年をこえて、その存続をつづけることができたのは、一に1792年に確立した組織が、ながき年月、ひろき諸地において、よく敵守励行されたからこそである。と、かんがえなければならぬであろう。そして、そうかんがえるならば、かれらの日常生活が、ながき期間にわたり、ひろき地域において、大同小異、ほとんど、ことなるところがないことこそ、むしろ、あたりまえのこと、と、いわねばならない。そういわねばならないことに、なるでもあろう。そうだとすれば、それを、おどろき、あやしむことのほうが、かえって、おかしい、ということにもなるであろう。それは、ともかく、事情はかくのごとくである。したがって、われわれは、かれらの日常生活をうかがうにあたり、かならずしも、時代を追ひ、場所をめぐるの勞をついやすにもおよばないことになる。したがって、以下において、うかがうところは、およそ、いつでも、どこでも、シェーカーズのむら¹⁾においては、みられた風景であるとかんがえてよいことになるであろう。

午前4時半にベルがなる。(ただし、これは夏の場合のこと、冬は5時である²⁾。)すると、みなは起床せねばならない。床は、かれら、または、かの女らのものではない。あらゆるものは、コミュニチーに属する。個人のものではない。ただ例外は、きものだけである。ただし、それも、ただ、2着にかぎる。婦人の場合でいえば、ドレス2着、シャツ2着、帽子2箇、ボンネツツ2箇。

1) "...each week-day throughout the year was the same..." John Humphrey Noyes, *History of American Socialisms*, Philadelphia, 1870, p. 600.

2) Janice Holt Giles, *The Believers*, Boston, 1957, p. 121; Everett Webber, *Escape to Utopia, The Communal Movement in America*, New York, 1959, p. 57; Charles Nordhoff, *The Communistic Societies of the United States*, New York, 1875, p. 140.

それだけである³⁾。

その服装は、男性は、ひろくて、ふちをかたくした (stiff-brimmed), しろ、または、はいいろの帽子と、ながい・うす青いろのうわぎが、その特徴である。女性は、スカートのところにひだがたくさんついているガウンを着、きみょうなかみかざり (head-dress), いいかえれば、かるいきれちの帽子をかぶる。このキャップはかみをすっかりおおうてしまう。そして、かおにまでおよぶ。だから、よそからきたひと (a stranger) は老若を識別することができない。戸外では、かの女たちは、ふかい・ひよけのボンネットをかぶる。この国では、シェーカーのボンネットとして知られているものである⁴⁾。かくて、かれらのきものたるや、制服といってもよいわけである。そして、かくのごとく、みな、おなじものであるのは、あるものが他のものよりも、よりうつくしい、あるいは、よりかねのかかった布地をもつことはゆるされないし、また、ことなつた服装もゆるされないからである。ただし、いろだけは、各人のこのみによって、いかなるいろをえらんでも、かまわない。ただし、これには、じぶんでめめることができるかぎりにおいて、という条件がついている⁵⁾。

わたくしは、ここに、かつて、ひきあいに出したことのある女性レベッカが、それについてのべているところを紹介しよう。けだし、それは、まことに、ビビッドにしるされている。それだけ、事情の理解に資するところ、すくなくないものがある。そうおもわれる。それだからである。かの女は、のべていう。

そのころになると、わたくしたちは、あたらしい服をもつた。服は、はでごのみのひとには、まことに、簡素で、じみ (drab) にみえたことと、わたくしにはおもわれる。チャーチ・ファミリーのシスターたちが、時間があまりなかったので、いろは数種とすることにきめたのである。それ以上せめあげることは、時間がかかりすぎるから、だめである、といった。わたくしたちに提供されたのは、青・茶および赤であった。赤は非常にこいく、ほとんど黒といてよいほどであった。わたくしは、青と茶をえ

3) J. H. Giles, *ibid.*, p. 111.

4) C. Nordhoff, *ibid.*, pp. 150-151.

5) J. H. Giles, *ibid.*, p. 115.

らんだ。パーミラも、わたくしとおなじようにした。それゆえ、たいていのシスターズは、そうした。しかし、アンニーは2着とも赤をえらんだ。

シェーカーの女性の服装のスタイルは簡素であった。チュッキ (bodice), そして、こしのバンドまでひだのついたながいスカートがあった。スカートは、もちろん、地面にまで達した。そして、シェーカーのひとびとは女性の胸^{ブスタ}がみえることを、その輪廓のみえることでさえも、みだらがましいこととしていたがゆえに、わたくしたちは、みんな、しろいぬのぎれをくびにまとい、それをまえにたらし、むねの上で十字にした。わたくしは、しばしばおもったものである。かれらはおおくの女性の自然の豊満を隠蔽するとしては、よりによってまことにつたないやりかたをえらんだものだ、と。なぜといって、しろいぬのぎれは、ときとして、かの女たちの容姿のまろやかさとゆたかさを、かえて、ますだけである。はやいはなしが、パーミラである。かの女は一片のぬのぎれではかくしきれなかった。わたくし自身、いくらかこまったものである⁶⁾。

さて、起床すると、まず、右足をベッドから出さねばならない。そして、右がわの足が、最初にふれたところに、右膝をおとして、祈禱をせねばならない。ものをいってはならない。どうしても、いわなければならぬ、場合には室長^{ルーム・リーダー}に、それも、ささやくことが、ゆるされている⁷⁾。祈禱の時間には制限はない。いくら、ながく祈禱してもかまわない。したいだけ、してよい。しかしながら、きがえの時間が15分しかない。だから、そうながく祈禱をしているわけにはゆかない⁸⁾。きがえは、背を室の中央にむけ、顔を壁にむけてする。ブライバシーのためである⁹⁾。それがすむと、めいめい、椅子を2脚背中合せにしてベッドのあしもとのところにおき¹⁰⁾、しきふを一つづつはいで、ベッドにかぜをとし、しきふは、よくはらって、たたんで、椅子の背にかける。まく

6) *Ibid.*, p. 143.

7) E. Webber, *ibid.*, p. 57.

8) J. H. Giles, *ibid.*, p. 121.

9) E. Webber, *ibid.*, p. 57.

10) J. H. Giles, *ibid.*, p. 121.

らは、さきに、椅子の座のところにおいておくこと、いうまでもない¹¹⁾。よごれもの (soiled things) はベッドにつんでおく¹²⁾。まどはあげられる。そして、室を出るまえに火の気に注意するのは、善良なるシェーカーズのなすべきところとせられている¹³⁾。男性の室では、便器 (chamber pods, or the slops) を室員の一人が室外にもち出すことになっている¹⁴⁾。それは、室の掃除を女性がすること後に述べるがごとくであるが故に、性を示唆させるものが女性の眼にふれることがないための配慮から、そうするのである。独身主義の原理に必然に随伴するをまぬがれない好色のムードの中で、わらい (sniggering) をうかべさせる機会をあたえることは、禁物であるからであろう。そう、エベレット氏は、つけたしている¹⁵⁾。以上、ながながとルーチンをしるした——ほんとうにながながとしるした。しかしながら、ながながとしるしたにはちがいないが、これは、まだまだ、序の口にすぎない。まことに、かれらの日常生活は、規則づくめである。あまりにも、規則づくめである。「ビリーバーズ」の作者は作中の人物・リチャードの妻、すなわち、さきにも・ひきあいに出した・おなじみのレベッカをして、「シェーカーの団体の一つの瑕瑾 (a flaw in the Shaker organization) は、まず、なによりも、あまりに規則が多く、あまりに窮窟であること (too many rules, too much rigidity) である」¹⁶⁾ といわしめている。まことに、そのとおり、と、いいたいくなるものは、ひとり、わたくしのみには、とどまらない、とおもうのであるが、はたして、いかがなものであろうか。

エベレット氏も、このことについて、しるしているが、それをみれば、わたくしが、こういうのが、もっとも、と、おもわないでは、いられないこと、と、おもう。だから、ついでに、ここに、それを、ひかしてもらおうであろう。つぎ

11) E. Webber, *ibid.*, p. 57; J. H. Giles, *ibid.*, p. 121; C. Nordhoff, *ibid.*, p. 140.

12) J. H. Giles, *ibid.*, p. 121.

13) E. Webber, *ibid.*, p. 57.

14) C. Nordhoff, *ibid.*, p. 140; E. Webber, *ibid.*, p. 57.

15) E. Webber, *ibid.*, p. 57.

16) J. H. Giles, *ibid.*, p. 126.

のごとくである。

かずかぎりのない、こまごました規則があって、それが、第二の天性となるまで、まもられる。右の靴からはけ、右の手袋からはめよ、右のずぼんからきよ、ダンスまたは歩行は右足からはじめよ、右側の馬にまず馬具をつけよ、——すべて、これは、聖書のある諷示からである。動物、または、ひとには、必要がなければふれてはならない。また、動物にひとの名をつけてはならない。男女の階段はべつべつになっている。男女が階段においてすれちがうことはゆるされない。また、男女は10歳以上の第三者が同席するにあらざれば、たがいにはなしかけることはゆるされない。もし、世俗のひとが手をのべてきたら、「礼儀上」(for civility) 握手せねばならない。しかしながら、もし、その手が異性のものであれば、シェーカーたるものは、その接触のことを、ミーチングに出席するにさきだち、エルダー、または、エルドレスに報告するを要する。もし、あるブラザーが、なにごとによらずあやまちをおかすところをみられたるときは、かれは懲戒を受けねばならない——そして、その場合、もし、かれが、じぶんのつみをエルダーに報告しなかった場合は、目撃者はエルダーに報告するを要する¹⁷⁾。

さて、以上のことがすむと、みんなは、室外に出る。といえば簡単であるが、実は、なかなか、そう簡単ではない。というのは、その出かたに、また、きまったやりかたがあるからである。男性は「行進体形」(in marching order) ででてゆくことになっている。女性は、「つまさきであゆむ」(go on the toes) ように命ぜられている。しかも、ただ、それだけではない。「左の腕は腹の上でまげ、右手はからだの側面にあて、指先は拇指にあてる」(left arm folded accross the stomach, right hand at the side, tips of the fingers touching the thumb) ことが、やはり、命ぜられているのである¹⁸⁾。みんなが、室を出て行くといったが、では、みんなは、室を出て、どこに行くのであるか。それは、それぞれの朝のしごとに行くのである。というのは、いうまでもないことであるが、みんなには、それぞれ、しごとが課せられている。これを、責任仕事

17) E. Webber, *ibid.*, p. 59.

18) *Ibid.*, p. 57.

(work duties) という。それは、いま、これを女性についていえば、ベッドをととのえること、室の清掃、事物の整頓が、その一つ (there was a duty for making beds and sweeping the chamber; ¹⁹⁾ put everything to the rights)²⁰⁾。料理が、その一つ。——このしごとには、サウス・ユニオン・シェーカー・ビルジでは、レベッカのころには、黒人の女性が数人、くどの火をもやすことを命ぜられていた。そう「ビリーバーズ」の作者は、おなじみのレベッカをして、いわしめている。——洗濯とアイロンがけが、その一つ (there was a duty in the washhouse, and for ironing)——というのは、女性はファミリー内の男性のために、洗濯・アイロンがけをも、することになっているからである。紡績・織布・裁縫が、その一つ²¹⁾。かくて、女性は、それぞれ、これらの義務仕事の一つが課せられている。そして、一ヶ月ごとに、担当の義務仕事を交替することになっていた。病気のために止むを得ざる場合のほか、みな、その当番を回避することは、できないさだめであった²²⁾。男性の義務仕事は農業・園芸を主とし、その他、いろいろの製造工業がある。室を出たかれらは、いずれも、そのしごとに行くのである。しかし、それは、まことに文字どおり、「あさめしまえ」のしごとなのである。ニュー・イングランド人のいわゆるコールズ (Chores) というやつである。

さて、女性の中、掃除の当番のものは、女性の室のみでなく、男性の室の掃除をもすることになっているのであるが、男性の室の掃除のために、その室に行くのは、つぎのベルのあいづがあってからである。そのわけは、男性が室を出ない中に男性の室に入ることをさけるための配慮である²³⁾。

女性が男性の世話をするのは、しかしながら、ただ、室の清掃だけではない。男性のひとりひとりに対して、ひとりの女性が指名されておる。そして、その

19) J. H. Giles, *ibid.*, p. 115.

20) C. Nordhoff, *ibid.*, p. 140.

21) J. H. Giles, *ibid.*, p. 115.

22) *Ibid.*

23) E. Webber, *ibid.*, p. 57.

女性は、その男性の衣料のめんどうをみ、いたんだ場合には、つくろいをし、よごれている場合には、洗濯をし、きかえる必要のある場合には、そのことをつけ、きちんとしていない場合には、とがめる、ということになっているのである。こうして、すべてにわたって、かれのみのまわりのこまごましたことにまで、女性らしい気をくばることに、なっているのである²⁴⁾。ときには、その男性はその女性にとって、ありし日の夫である場合もある²⁵⁾。

ついでながら、例のレベッカは、かの女が洗濯仕事の当番のときの、この時間のことをしるしている。いま、それをみると、いままで、うかがってきたところが、ヴィヴィッドに眼前に展開するおもむきがある。だからしばらく、それを、ここに、附記してみよう。かの女は、こうしるしている。

起床のベルが鳴った。ひろ場をこえてがんがんとした。家中いっぱいになりひびいた。それは、みなを、一齊にベッドの中に、おきあがらせた。

「何時かしら？」と、アンニーが、うすぐらい室の中をすかして、みまわしながら、たずねた。「4時半よ」と、わたくしは、かの女にこたえた。「ほら、しってるじゃないの。ベルは10月までは、4時半になり、それから後、冬の間は、5時にかわるってこと。」

バーミラは、せのびをし、かみをくしゃくしゃにかきみだし、両肩をたたいた。「なにからすよういわれたんだっけ。」

「ああ」とアメンダが、みじかくいった。

わたくしたちは、ベッドからおりて、ひざまずいた。わたくしたちは、だまって、いのりをしなければならなかった。いのりの時間に制限はなかった。いのりだけ、いつまでいのりしてもよかった。しかし、きがえの時間が15分しかなかったから、そうながいこといのりしていることはできなかった。

ひとり、また、ひとり、と、わたくしたちは起床した。わたくしたちは、椅子をベッドのあしもとにおき、まくらを椅子の座席にのせ、カバーをかえして、風をいれた。ベッドづくり (to make the beds) は、わたくしたちの当番ではなかった。わたく

24) C. Nordhoff, *ibid.*, p. 140.

25) E. Webber, *ibid.*, p. 57.

したちは、いそいで、きがえをした。このはじめての朝からおくれるのを、おそれたからである。……わたくしたちは、よごれたものを、わたくしのベッドにつんだ。ほかのひとたちはいそいで外に出ていった。めいめい、それぞれの義務しごとをするためである。

わたくしの当番のしごとは、わたくしに、室内のよごれものをとりあつめて、ホールにそうて行き、他の室からのよごれものをあつめ、それを洗濯室にもって行くことを要請した。それがすむと、わたくしは、男性のよごれた衣類をとりにかえらねばならなかった。男性のよごれた衣類は、とりまとめて、さっぱりとたばねられて、ドアのそとがわにおいてあるのであった。

……………

わたくしが、わたくしのしごとをしに行つたときには、男性たちは、ひとりも、家にいなかった。かれらの義務しごとは、みな、屋外にあったからである。……朝食のベルがなるまでにはまだ、1時間半あった。これは、われわれが、担当のしごとを、うまくはじめるようにしておくために、また、だいどころ当番の女性には、食事の用意をするために、あたえられた時間なのであった。

パーミラは、すでに、ちちしほり室に行つてしまっていた。そして、アンニーとビニーは、わたくしたちの寢室の掃除がかの女たちの義務だったので、しごとをしている最中で、掃いたり、はたいたり、ベッドづくりをしつたりしていた。清掃に混雑をともなうことはなかった。それというのも、いかなるものでも、ちらかしておいてはならないと、よくいましめられていたからである。さっぱりとしたことと清潔とは、マザー・アン以来、ずっと、強調せられてきたところである。マザー・アンは、かつて、こういつた。「さっぱりとして、勤勉であれ。ものは、みな、そのもののあるべきところにおけ。それをやぶつてはならない。なんじのきものを常に清潔、かつ、端正であらしめよ。なんじの住居が、清潔に、かつ、整頓せる状態にあり、そして、なんじの食物が、秩序良く用意せられているように、配慮せよ。さっぱりとし、清潔であれ。そして、あらゆるなんじの行動において、常に、神を畏れよ。」

……………

朝食のベルがなった時までには、わたくしたちは、すでに、衣類のえりわけをおわり、おけの中の水は、しろいものを漬けてもよいだけに、あつくなっていた。わたく

したちは、それをあとにして、朝食にでかけた。そして、かねて、おしえられていたとおりに、右手のドアからはいつて行った²⁶⁾。

6時になると朝食のベルがなる。ただし、それは夏の場合で、冬には6時半になる。そのことは、起床の時間を述べたところよりして容易に理解できよう。さて、その6時の朝食のベルがなると、みな、食堂にあつまる。それは、いうまでもないところである。しかしながら、そのはいりかたが、また、おもしろい。かれら独得のしかたがあるのである。まづ、ベルがなると、かれらは、男性も女性も、さだめのホールにあつまる。やがて、小さいベルがならされる。すると、食堂のドアがひらかれる。ファミリーのひとびとは列をつくる。行列は無言で厳粛である。そして、かれらは、食堂に入る²⁷⁾。

食堂のいりくちは左右二つつくってある。男女いりくちをおなじくせぬためである。左の方のいりくちは男性用であり、右の方のいりくちは女性用となっている²⁸⁾。さきに引いたレベッカの手記に「右手のドアからはいつて行った」とあるのは、すなわち、このさだめによったものである。それは、けっして、ただ、偶然の行動では、なかったのである。そして、はいるのは、男性がさきで、女性はそれにつづく²⁹⁾。

食卓は、これまた、男女の別がある。男女、それぞれに、別れているのである。むきだしの・ながい・よくふきこんであるテーブルである。ガラスの器具やこったはものの類 (fancy cutlery) は、もちいられない。めいめいの皿は四人ごとにならべられる。ひとにてわたし (passing) をする必要がないためである。やくみ (condiments)・ソース、および、シロップは、盆にのせて、食卓の上2フィートくらいの高さのところ、天井からぶらさげられている。これは、食卓をひろくするためである。しかし、それは、ちょっと、おもしろい雅致をそえるはたらきもしている³⁰⁾。1870年ごろ、各地のシェーカー・ピリッ

26) J. H. Giles, *ibid.*, pp. 121-124.

27) J. H. Noyes, *ibid.*, p. 600.

28) J. H. Giles, *ibid.*, pp. 121-122.

ジを巡歴した・例のノルドホッフ氏は、レバノン、および、そのほかでも、若干のソサイエチでは、二つの食卓をそなえ、一つの食卓には肉があり、もう一つの食卓には肉がない旨をしるしている³²⁾。

さて、食堂に入ると、みながはいって、それぞれの席につくまでは、立ったままである³³⁾。食卓につくと、まづ、食卓の上席にいるエルダーの号令で、一同、ひざまずく。そして、黙禱をする。その間約2分。ついで、また、号令で、たちあがる。そして、こしをかける。そして、食事を始める。食事中、めくばせ (winking and blinking) することは禁物である。ものをいうことも、ゆるされない³⁴⁾。

食物は簡素である。しかし、量はたっぷりある。豚は^がけっしてたべない。ただ、シェーカーのひとびとの中の、一部小数のものだけが、どんな肉でも、おかまいなしに、たべるだけである。多くのものは、動物によってつくられた食料をもちいない。ミルクやバター、たまごさえ、口にしない。さきに、ふれた、レバノン、その他のところで、肉のある食卓と肉のない食卓の二様の食卓がある事実は、よってきたところ、実にここにあることをしる。かれらは、くだものは、たくさんたべる。食事ごとに、たべる。シェーカーのひとびとは、いつでも、みごとな・ひろびろとした菜園と果樹園をもっている³⁵⁾。

わたくしは、肉はきらわれる、といったが、きらわれるのは、肉だけではない。茶やコーヒーも、また、よろこばれない。しかし、まったく禁じられているわけでは、ない。たばこでさえ、どうしてもやめることのできない一部小数のものには、ときおりふかすことがゆるされていた³⁵⁾。

いまのべたことのくりかえしにすぎず、重複のきらいはあるが、さきの例に

29) J. H. Noyes, *ibid.*, p. 600.

30) E. Webber, *ibid.*, p. 58; J. H. Noyes, *ibid.*, p. 600.

31) C. Nordhoff, *ibid.*, p. 141.

32) J. H. Noyes, *ibid.*, p. 600.

33) E. Webber, *ibid.*, p. 58.

34) C. Nordhoff, *ibid.*, p. 141.

35) E. Webber, *ibid.*, p. 58.

なっていて、いま、また、ここに、レベッカの手記を引けば、それは、つぎのごとくである。

特別の食卓がつくられていた。ながい、すじかいの入った (trestle) 足のついたものである。男性は室の男性の側、女性は女性の側でたべる。はなしをすることは、厳禁である。わたくしたちは、はいると、黙禱するために、椅子のそばで、ひざまずかねばならない。それから、食事があたえられる。食卓では、4人1組で、その前に、全部のものが、ならべられる。だから、いれものをわたしたり、または、じぶんの手のとどかぬものを、とってもらう、と、というようなことは、すこしも、その必要がなかった³⁶⁾。

食事がおわると、一同、たちあがる。そして、食卓に来たときとおなじかたで、食卓から行進して出て行く。行進中、食事中、また、出て行く行進中、たれひとり口をきかない。沈黙・静肅の連続である³⁷⁾。それから、かれらは、めいめいのしごとにとりかかるのである。いま、また、そこのところを、例によって、レベッカの手記についてみれば、こうしるざれている。

食事がおわると、わたくしたちは、また黙禱をした。それから、一列をつくって、しずかに外に出た (we filed slowly out)。そして、わたくしたちのしごとにもわかった³⁸⁾。

かくて、朝食がすむと、みな、めいめい、じぶんのしごとにとりかかるとして、12時10分まえまで、熱心に、しごとに従事する。

そのしごとは、いろいろある。それは、さきに、みたところのごとくである³⁹⁾。そして、ディーンに属するケア・テーカーが、フォア・メンとして、その部下のひとびとが、適材適所、みな、そのところを得るようにする。そのことも、また、すでに、わたくしの、さきに、あきらかにしておいたところに

36) J. H. Giles, *ibid.*, p. 124.

37) J. H. Noyes, *ibid.*, pp. 600-601.

38) J. H. Giles, *ibid.*, p. 125.

39) 拙稿、シェーカーズ、11、本誌、93巻6号、昭和39年6月。

属する⁴⁰⁾。それによってもわかるとおり、女子は、重労働や、野外のしごととはしない。ただし、いちごつみのごときかるい労働は、このかぎりではない。そして、普通の農夫の妻ほどはげしくはたらくことはない。重労働は、すべて、男性が、これにあたる。そして、かれらは、あせるということをしてしない。かれらはわきまえている。生存を維持するためには、つましく生活するかぎり、くるしい労働をする必要はない、ということをおおぜいではたらけば、しごととはらくになる。そして、みな、利害をともにするところでは、労働は快樂になりうるし、また、事実、なるものである。また、かりいれどきのごとく、どこでも、エキストラのひとでが必要のときには、そこに充分のちからをふりむけることは、きわめて易々たることである。それは、いうまでもないところである⁴¹⁾。

なお、ここでわすれてならないことは、かれらは、この時代のあらゆる労働を節約するもろもろの考案 (all the labor-saving devices of the era) を、男性のためにも、女性のためにも、購入乃至建造していたということである。洗濯機・かりいれ機 (reapers) ・くさく機 (parers) ・しごとばの諸設備等が、すなわち、それである。棒状のまるいものにとってかわったひらたいほおき (flat broom)、回転のこぎり (circular saw) の発明の功は、実に、シェーカーの女性に帰せられている⁴²⁾。

男性が女性のしごと場からなにかをもとめる必要が生じた場合には、かれはかれのフォーア・マンに、そのことを申しでる。すると、今度は、そのフォーア・マンが、フォーア・ウーマンのところに行く。そして、そのことをはなす。そう、かんがえられる⁴³⁾。

こどもたちも、6歳になれば、また、しごとをする。それは、おとなのためのもてましごと (piece work) である。ただし、こどもたちは、じぶんらのとこ

40) 同上。

41) C. Nordhoff, *ibid.*, pp. 141-142.

42) E. Webber, *ibid.*, p. 58.

43) *Ibid.*, p. 59.

ろで、しごとをするのである⁴⁴⁾。

さて、12時10分まえになると、昼食をつげるベルがなる。そのことは、さきに、のべたところのごとくである。すると、みなは、しごとをやめて——農夫は田畑を去り、製造工はしごとばを後にし——みな、手をあらい、ふたたび、列をつくり、朝食のときとおなじしかたで、食事をする。そして、食事がすむと、すぐ、やすむひまなく、また、しごとにでかける。そして、夕食のときまで、はたらく⁴⁵⁾。

例によって、また、ここで、レベッカの手記を引けば、つぎのごとく、しるされているのを見ることができる。

午前の時間は、あっという間にすぎてしまった(The rest of the morning passed quickly)。12時10分まえ、昼食のベルがなった。食事がすむと、わたくしたちは、わたくしたちのしごとにかえって行った⁴⁶⁾。

それから、かれらは、夕食のときまで、はたらきつづける。それは、なかなかの労働である。女性の労働は、普通の農夫の妻に比べれば、それほど、はげしくない。ずっと、かるい。そういわれている。また、男女、ともに、労働を節約する考案ができるだけとりいれられている。そうもいわれている。かれらは、あせらない。だから、むりをしない。かくて、労働の苦痛はできるだけこれを緩和することに努力がはらわれている。そうもいわれている。また、おおぜいで、共通の利益のためにはたらくところでは、労働の苦痛は化して快楽となる。そうも、いわれる。それらのことは、われわれの、すでに、みたところのごとくである。そして、わたくしは、あえて、それに異議をとえんとするものではない。しかしながら、それにしても、かれらの労働は相当なものである。それは、みとめなければならぬのではないであろうか。すくなくとも、わたくしは、それをみとめざるを得ぬものである。そして、いま、われわれに

44) *Ibid.*

45) J. H. Noyes, *ibid.*, p. 601.

46) J. H. Giles, *ibid.*, p. 127.

おなじみのレベッカの手記にしるされているところをみれば、わたくしがこういうのを、ひとは、かならずしも、とがめはしないであろう。そう、わたくしは、おもうのであるが、さて、いかがなものであろうか。それでは、レベッカの手記にしるされているところというのは、いかなるものであろうか。それは、つぎのごときものである。

パーミラは、かの女のベッドの上にごったりとなっていた (Permillia flopped on her bed)。「わたくし、いしくれになったみたいよ。もし、たれか」と、かの女は、身をおこし、かたひじをつきながら、いった。「あのちしほり室ではたらくのはらくだ、と、かんがえるなら、まあ、じぶん^にその番がまわってくるまで、おまちよ。あの^{おけ}と大^{おけ}を全部もちあげねばならないのよ。それから、しょっちゅう、こしやせ^なかをかがめるのよ。それを一日中するのよ。ひどすぎるしごと^だわ。ほんとに、そう^だわ。」

わたくしも、同様、つかれていた。わたくしたちのファミリーには、なかが、約30人いた。それだけのおおぜいのひとたちのために洗濯するのは、なかなかのしごとである。わたくしは、一日の大部分を、ずっと、おけの上に身をかがめていた。わたくしのせ^なかはすぎずきといたみ、わたくしの両手はふくれあがり・みずびたしになっているようなかんじがする。アマンダは、いとぐりの役^{ゴースト}をひきあてた。だから、みんなのうちでは、かの女がいちばんつかれていなかった。アンニーとビニーは寢室を掃除した後、庭園のくさ^ひきにまわされていた。アンニーはせ^なかがやぶれたと、かこった。そして、ビニーは非常につかれ、そのために、かの女のみじめな・としおいたかおは、まっさおであった。「わたくし、とても、ダンスになど行く気しないわ」と、かの女は、いった。

わたくしは、すくなくとも、このはじめの日だけは、たれも行きたがらないだろうとおもった。しかし、病気になるいかぎりは、しごと^もあつまり (Meeting) も、どちらも、行かすには、すまされない⁴⁷⁾。

夕食は、6時となっている。夕食は、朝食・昼食の場合とおなじことがくり

47) Ibid., pp. 127-128.

かえされる⁴⁸⁾。だから、それ以外、別に、あらためて、記するにもおよばないであろう。

夕食後といえども、かれらは、まだ、自由の身とはならない。なんととなれば、晩は晩で、また、なんらかのおつとめ (services) が、かれらをまっている。でなければ、ミーチングに出席しなければならない。それだからである。そして、その間に、みじかいインターバルがありうるだけである。そして、そのみじかい、インターバルは、じぶんの室でやすむことができる。いま、ひいた、レベッカの手記は、実は、このみじかいインターバルにおけるできごとにすぎぬのである。しかしながら、8時になると、しごとはいっさい、おわりとなる。しかし、それからは、総集会 (Union Meeting) に出席しなければならない。これが約1時間つづく。そして、9時になると、みなは、ベッドにつく。あかりが消される。かくて、一日がおわる⁴⁹⁾。

ところで、それでは、ユニオン・ミーチングというのはいかなるものであろうか。いま、マクドナルドの一友人のつたえるところを引けば、それは、つぎのごとくである。

2人のエルダースと2人のエルドレズがエルダーの室でかれらのミーチングをもつ。3人のディーコンズと3人のディーコネズがかれらの室の一つで会する。ファミリーの他のものたちは、6人乃至8人つつのブラザーズとシスターズで組をなしてそれぞれ別の室で会する。これらのミーチングにおいては、座席は2列に、約4フィートの間隔をあけて、ならべられるのがきまりである。シスターズは一つの列につき、ブラザーズは他の列につく。そして、たがいにむかいあう。このミーチングは、どちらかといえば、たいくつなものである。なぜなら、メンバーズは、みな、話題をもちあわせていないからである。はなすことといえば、ファミリーのことだけである。それしかないのである。けだし、世俗の事物にこころをわずらわされるものはよきシェーカーズではない、と、みなされるからである。シェーカーに入団するものは、

48) J. H. Giles, *ibid.*, p. 127; J. H. Noyes, *ibid.*, p. 601.

49) J. H. Noyes, *Ibid.*

世俗^{ワールド}をすててくるもの、と、期待されている。はなしのおもな題目は飲食のことであった。ひとりのブラザーは、ひとりのシスターにむかって、かの女を最良の料理人とおもう、かの女は最良のジュニー・ケーキをつくることができる、と、酒々^{コック}と雄弁をふるった。わたくしの出席した、あるミーチングでは、ディナーになにをたべたか、と、いうことについて、はなしにはながされた。こうすることによって、われわれは、ディナーを二度エンジョイした。そう、いわれても、よいかもしれない⁵⁰⁾。

しかしながら、ミーチングは、ユニオン・ミーチングだけではない。晩によっては、ほかのものと、とりかえられる。かくて、ノルドホッフ氏は、かれらの晩は、かれらが健全であるとみなすごとききばらしてみたされている、という⁵¹⁾。そして、かれは、その例として、レパノン山の場合をあげている。それによると、レパノン山では、月曜日の晩は食堂において、ジェネラル・ミーチングがもたれる。そして、そこでは、いろいろの新聞からえらばれたアーチクルズがよまれる。この場合、犯罪^{クライムズ}と災害^{アサンディツ}は適当でないとしてのぞかれる。とりあげられるのは、おもに、科学のニュース・公共のことにいつての論説・世間の一般的な情報である。かれらは、現下の重大な政治・社会のうごきについての情報をつたえる題材をこのんだ。このミーチングでは、また、他のシェーカー・ビルッジからのたよりも、よみあげられる。火曜日の晩は、集会の広間にあつまって音楽・行進等々をおこなう。水曜日の夜は、さきに引いた、ユニオン・ミーチングの会話にあてられる。木曜日の夜は、おつとめのミーチングがある。おつとめのミーチングというのは、正規な宗教の勤行の謂である。金曜日はあたらしい歌謡^{ソングス}と讚美歌^{ヒムズ}にあてられる。そして土曜日の夜は、礼拝にあてられる。最後に、日曜日の晩は、かれらは、あらかじめ約しておいて、おたがいにおたがいの室をたづねる。3人乃至4人のシスターズが、ブラザーズたちを、その室にたづねて、歌をうたったり、よもやまのはなしをするのである⁵²⁾。

50) *Ibid.*, pp. 601-602.

51) C. Nordhoff, *ibid.*, p. 124.

52) *Ibid.*

いま、それらの一々について、ここに、さらにたちいって、くわしく、うかがういとまはない。また、その必要もあるまい。そうおもわれる。すくなくとも、わたくしには、そうおもわれる。しかしながら、そうは、いうものの、そのうたとダンスに関するかぎりは、そういって、かたずけてしまうわけには、ゆかないであろう。なんとなれば、この二つのものは、シェーカーのひとつにとつては、まことに、重要なものであるからである。けだし、この二つのものは、シェーカーのひとつとは、そもそものはじまりから、きってもきれぬ関係にある。そういってもよい。そういっても、かならずしも、いいすぎにはなるまい。すくなくとも、わたくしには、そうおもわれる。かれらは、よくおどる。それはひとゆるし、みずからもみとめるところである。だからこそ、ひとから、シェーカーズとよばれ、また、みずからも、そうよぶにいたったのではないか。かれらは、その、おどる場合、さかんにうたう。そうぞうしいかぎりである。かれらが、いたるところで、迫害をこうむるにいたったことは、われわれのしばしばうかがったところであるが、そして、それにはいろいろの原因をあげることができはするが、それらの原因の一つは、実に、これであることを、否定することは、できないのでないか。そうおもわれる。それくらいである。だから、この二つのものは、シェーカーのひとつとは、きってもきれぬ関係にある。そのことは、これを否定するわけにはゆかないのではないか。まことに、この二つのものは、シェーカーリズムの二大特徴である。この二つのものをのぞいたシェーカーリズムは、それこそ、うたをわすれたカナリヤみたいなものといっても、いいすぎにはならないであろう。ラウンドテーブルのないアーサーのコートに似たり、と、いっても、いいすぎにはならないであろう。だから、この二つのものに関するかぎりは、わたくしは、ここに、さらに、たちいって、すくなく、うかがうところがなければならぬ。わたくしには、そうおもわれる。そこで、わたくしは、そうするであろう。

それでは、それらのものは、いかにあるか。いましばらく、ノルドホッフ氏のつたえるところによって、これを、うかがえば、それは、つぎのごとくであ

る。

ミーチング・ハウスには、たいてい、ベンチがある。ひとびとは、みんながあつまるまで、それにこしをかけて待つ。アセンブリー・ホールには、壁にそうて、席があるだけである。ファミリーのメンバーは、はいってくる、いつも、きまったじぶんの席につく。そして礼拝のための席次順にしたがって立つ。男性と女性はむかいあわせにたつ。年長の男女は前列にたつ。エルダースは先頭にたつ。かなりひろい空間と通路が二つの列の間の中のこされる。讚美歌合唱の後、普通、エルダーが、生活の聖なることと神への帰依 (holiness of living and consecration to God) について、みじかい演説をする。つづいてエルドレスがおなじことをする。そこで、列がくずされる。そして、12人のブラザーズとシスターズが別々のフォーメーションを床上にかたちづくる。そして、快活な調子で讚美歌をうたいはじめる。すると、他のものがみな、これに和し、室内を、急な歩調で、ぐるぐると円をえがいて行進する。男性が先へすすむ。女性がその後につづく。そして、一同は、しばしば、手をたたく。

運動は、列をつくりかえることによって、男女からはなしかけることによって、うたをうたうことによって、かれらが行進しながら・神の前でダビデがおどったように (as David danced before the Lord) おどることによって、いろいろに変化させられる。——いづれにしても、おどりは一種のすりあしである。ときどき、メンバーのなかのひとりが、ほかのものよりも、もっとふかく感動させられて、あるいは、なんらかの精神上的苦痛のためかもしれないが、他のひとたちにいのりをしてくれとたのむ。あるいは、たれかが、先頭に出てきて、エルダーとエルドレスにおじぎをして、旋舞をする。それは、奇妙な運動で、ときとして、かなりながくつづく。そして、それは、ひとめをひく動作である。さらに、また、あるブラザー、または、あるシスターが感応して、霊の国からの満足、または、警戒のおつげをつける。あるいは、ある霊が会集にいのりをしてくれとこころ。そのような場合、エルダーは、みなのものに、ひざまずいて・しばらく・黙禱することを、もとめる。

かれらが行進とおどりをなすとき、かれらは、かれらの両手を前方につき出し、なにものかをたぐりよせ・あつめるよううごきをする。これは、祝福まねき (gathering a blessing)、と、よばれる。ブラザーまたはシスターのたれかがかれらにのりと同情をもとめるときには、かれらは、おなじような動作でもって、かれらの両手

をうらがえして、かれのもとむるものをかれの方におす。

すべてのうごきは、非常に正確に、かつ、くるいなく、おこなわれる。かれらの調子は、一般に、急速で、歌手の調子をとることのたくみさには、おどろくべきものがある。エルダーのことはにミーチングはしたがう。それで、かれの命令で、みんな解散する。かれらにとっては、かれらのミーチングのおもむぎに変化をあたえ、かくて、かれらに生氣を賦与するのが目的である。わたくしは、そう信ずる⁵³⁾。

いま、ノルドホッフ氏がシェーカーのダンスを叙する条をよむとき、わたくしは、わたくしのおもいがわたくしの書齋の窓をぬけ出て、はるかに、北米ニューヨーク州の東境レバノン山にとぶのを、いかんともするを得ない。はやいものである。もう、すでに、6年のまえになる。それは1959年5月上旬の一日のことであった。わたくしが、シェーカーのあとをたずねて、そこに杖を引いたのは。前夜、スプリングフィールド (Springfield, N. Y.) という小さいまちにとまったわたくしは、翌早朝、まず、そのまちの博物館をたずねた。なにか、シェーカーの遺物がみられはしないかとおもったからである。こうかいてゆくと、ちょうど、そのおり、どこかの小学生の一隊が女の先生にひきいられて見学に来ていた風景まで、まざまざと、わたくしのまぶたに、うかびあがるのも、なつかしいかぎりである。博物館は、りっぱではあったが、わたくしの熱望をみたすにはたりないものがあつた。しかし、館員の一人が、親切にも、レバノン見学のことをとりはからってくれた。わたくしは、さっそく、バスでレバノンにむかった。おしえられたとおり、ダッロー (Darrow) というところで、車掌にいつておろしてもらつた。すると、ダッロー・スクールの教頭のブロードヘッド氏 (Assistant Head Master, Charles Dingman Brodhead) が、わたくしを出迎に来てくださつていた。スプリングフィールドの博物館から、電話で、すでに、紹介してあつたからのよし。1932年9月以来、シェーカーのあとは、ダッロー・スクール (Darrow School) となつていたのである。同校のか

53) *Ibid.*, pp. 143-144.

たがたの御好意で、わたくしは一日中、心ゆくまで、シェーカーの遺蹟をたずねることができた。しかしながら、それについては、他日稿をあらためてしるすこともある。いまここで、わたくしのしるさねばならないのは、ただ、シェーカーのダンスについてだけである。わたくしは、そのおり、それについてたずねた。すると、さいわい、右の教頭が、じぶんはシェーカーのひとからならってしっている、と、いって、わたくしのために実演するの労をおしまれなかった。しかも、わたくしのこいにまかせて、何回も何回もくりかへされた。おかげで、わたくしは、それを、ムービー・カメラにおさめることができた。それは、いまでも、わたくしのでもとにある。わたくしは、ときにそれをうつしては興じているしだいである。さて、そのダンスであるが、ノルドホッフ氏の叙述もさることながら、わたくしは、わたくしたち日本人には、むしろ、「おてだま」によって説明する方が、より有効適切であろうとおもう。ここに「おてだま」というのは、女児がよくやる、あそびの一種のことである。小さい玉を3つ5つ4つかわるがわる宙にほおりあげては、手にうけとめ、うけとめてはまたほおりあげる、あのあそびである。あのあそびにおける手つきとか手ぶりとかを、玉なしでやりながら天を仰いで前方にすすめば、そこに、われわれはシェーカーのダンスをみることができる。そういうことができる。そういても、よい。それこそ、われわれにとっては、もっとも有効適切に説明する所以である。すくなくとも、わたくしは、そのように、おもうのであるが、はたして、いかがなものであろうか。

はなしが、おもわず、わきみちにそれすぎたきらいなしとしない。本すじにかえろう。ところで、本すじは、いま、また、例によりて、上にうかがったところを、おなじみのレベッカの手記にしるすところによりて、さらにビビッドに再現することにほかならない。それでは、レベッカは、それをいかにしるしているか。

レベッカのしるすところは、つぎのごとくである。

7時半に、わたくしたちは、あつまりのへやに、行った。へやには、かべにそうて

ぐるっと、ベンチがおいてあるだけで、そのほかには、なにひとつなかった。運動をするのにゆかをひろくとらねばならなかったからである。ブラザー・ベンジャミンがわたくしたちを指導するために、チャーチ・ファミリーから、すでに、みえていた。かれは、わたくしたちみんなが席につくまで待っていた。そして、それから、わたくしたちに、説明をした。これまで、わたくしたちはわたくしたちの家ではひとつがいっぱいだったため、適当にフォーメーションをなしてダンスをすることができるだけのひろい場所がなかった。それゆえ、わたくしたちは、みな、おづおづして、ぎごちない、と。かれは、また、こうも、いった。いまわたくしたちはもっと、はやく、自在に進進し、もっと、たのしく、もっと、奔放に、運動をしなければならない、と。かれのおしえかたは、6人のシスターズと6人のブラザーズを引き出し、わたくしたちがみることができるように、そのひとたちをリードするものであった。

はじめは、シェーカーのうたは、わたくしには、一つの神秘であった。それらのうたの中には歌詞のあるものもあった。しかし、その多くは、歌詞がなく……符があるだけのようにみえた。そして、わたくしは、ふるい教会の讃美歌になじんでいたものだから、調子の多くは、わたくしには、奇異にひびいた。ほとんど、たいした調子というものがなかった。高低のみがあった。韻は、ちょうど、まんなかのところで、よく、こわれ、緩より急に、それから、また、緩にかえるのであった。その夜、これは、わたくしの想像であるが、わたくしたちの中の大部分のものが、つかれて、しょげているのを感じて、ブラザー・ベンジャミンはマザー・アンのダンスのうた・ローリー(Lowly)をもちいた。このうたは、ローリー・ローリー・ローリー・ロウ、と、くりかえすだけで、そのほかには、なんのこともなかった。

わたくしたちをみているひとたちが、うたを、うたった。そして、えらばれたかすかすのうたがステップに和してながれていった。それらのうたは、いづれも、ゆるいステップで、すりあし(the shuffle)のもので、あった。たれにでもできた。だが、ブラザー・ベンジャミンがおしえたフォーメーションをみて、まったく、驚嘆した。ダンスは兵士の教練のように進行した。はじめは、密集して、男女がむかいあってすれちがい、はなれ、またすれちがう。あるときは、2、3人づつで、そのつぎは、全員で、旋回し、転回し、交錯する。わたくしは、はたして、わたくしに、ならうことが、

できるであろうか、と、うたがった。

もちろん、わたくしも、ならうことはならなかった。しかし、それは、このはじめての晩のことではなかった。わたくしたちは、ローリー・ロウをうたった。おどりのひとたちは、おどった。ブラザー・ベンジャミンは、かれらを席にかえし、わたくしたちの中のみていたものたちを、よんだ。わたくしは、ひとまえでなにかをするときはずっと、神経過敏にならないように、用心せねばならなかった。しかし、わたくしはフォーメーションを、りっぱにやりとげたい一心から、すっかりわれをわすれてしまった。わたくしは、連中をやぶる原因になりたくなかった。マザー・アンの時代には、ダンスのための組仲間というものはない、と、いうことである。——めいめいは、じぶんの衝動のままにインパルス旋回したり転回したりしたものだ、と、いうことである。それは自由で生き生きしたものであった、と、いうことである。だが、いまは、マザー・ルーシーが教会のかしらであった。かの女は適当なステップやフォーメーションを非常におもんじた。かの女はひとびとが、ダンスをよくならうのを援助するために、各地のビレッジに教師を派遣することさえもした。しかし、ブラザー・ベンジャミンには、その必要はなかった。かれは、いかなるステップも、いかなるフォーメーションも、しっていた。それに、かれ自身、しんぼうづよい・ゆきとどいた・用心ぶかい・よい教師であった。

かれの指導の下で、わたくしたちがうごきまわっていたとき、かれは、わたくしたちを席にもどして、「テスチモニー」の一部を、わたくしたちに、よみかした。そのあと、かれは、にわかに、自然に胸から湧くうたを、うたいはじめた。そして、それをのぞむものを、急調子の、生き生きした・からだを震動させるダンスにみちびきこんだ。からだを震動させることは、これ、また、うまくせられねばならない。震動は、まず、ゆるやかなてくびをもつてする手の震動ではじまる。ついで、うでの前部に、うでの前部からかたに、すすむ。そして、最後に、その全力でもって、全身をとらえてしまう。

震動運動の最中に、シスター・スザンの舌がうたのギフト（恩寵）のみまいをうけた。あらゆるギフトを、すぐに、感得するのがシェーカーの常道である。だから、わたくしたちは、ダンスを中止して、うたは、つづけながら、かの女をとりまいた。か

の女のかおはよろこびでかがやいていた。そして、ビジョンがかの女に歌をさずけた。ブラザー・ベンジャミンは、すぐに、その歌がうつくしいものとしり、ノート・ブックをとり出して、かきとめた。それは、わたくしたちの愛誦するものの一つとなった。それで、わたくしは、それを、よくおぼえている。――

O calvini criste I no vole,

Calvini criste liste um,

I no vole vinin ne vite

I no vole viste vum

ビジョンがかの女を去ると、かの女は、いろあおざめ、ぐったりとなった。しかし、かの女は、かの女のみたところのものを、わたくしたちにはなそうと、こころみた。

「わたくしはマザー・アンとイエスにあった。ふたりは、ならんで、にこにこして、うなづかれ、めでられた。おお、あれこそひかりとよろこびのビジョンだったわ！」

わたくしたちは、かの女の歌をひかりとよろこびの歌とよびならわすにいたった。そして、そのリズムは急調子であった。だから、わたくしたちは、快活なダンスのときには、しばしば、それをもちいた。

わたくしたちは、いのりとほめことばをうけたのち、解放せられた。そして、しづかに、わたくしたちのへやに、かえった。わたくしたちは、いつも、しづかにあるかねばならなかった。……それはおきてであった。しづかにあゆめ、ドアはしづかにたてよ、しづかにはなせ。……

就床の時間は10月までは9時半であった。10月以後は9時にくりあげられる。わたくしたちのなかのたいていのものは、非常につかれていた。それで、その夜はロソクが消えたあと、はなしをしなかった。わたくしたちは、しづかに、身をよこたえ、やがて、ねむった。わたくしたちのシェーカー・ビルッジにおける第1日はおわたった。わたくしたちは、その様式とその音韻を感得した。わたくしたちは、すこしはのみこめた。ところで、つぎには、なにがおこるであろうか⁵⁴⁾。

以上、わたくしは、シェーカーのひとびとの日常生活をうかがった。そして、

54) J. H. Giles, *ibid.*, pp. 128-130.

起床より就床まで、かれらのうごきゆくあとをおうてその一日の行動をながめた。これによって、特異なかれらの行状が、そして、それを通じて、シェーカーの組織が、いささかなりとも、あきらかとなれば、わたくしのねがいはいはなかったわけである。しかしながら、それにしても、ここにみたところは、まだ、表面にすぎない。なにごとにも裏面というものがある。1枚の紙にもうらとおもてがある。いわんや複雑・怪奇な人間のつくりいとなむ社会においておやといわなければならぬであろう。もっとも、そういえば、あるいは、かれらシェーカーのひとびとは、それだからこそ、俗世をさけて隠遁したのではなかったか、と、いうひとがあるかもしれない。だが、それにしても、そのため、かれらの生活には、かえて、むりが生じたとみられるふしがないとは、いえないのではなからうか。たとえば、かれらのセリパシーをみよ、たとえば、かれらの共産をみよ。また、たとえば、ここでみたあの規則づくめの窮窟きわまる生活様式をみよ。そこには自然と人性に、かならずしも、即するとはいいがたいものが、はたしてないと、断じうるであろうか。おそらく、そう断ずるわけにはゆかないであろう。そう断ずるわけにゆかないとすれば、われわれは、いま、われわれのみてきたところの、裡側に、いくたの複雑・怪奇な事情が伏在することをみとめないわけにはゆかないであろう。しからば、シェーカーをきわめんとすれば、われわれは、いま、ここにうかがったところだけで満足することは、ゆるされないはずである。かくて、われわれは、さらにすすんで、そこにかもし出される、人性および人世のもろもろの複雑・怪奇な様相をたずねうかがわねばならないことになるであろう。わたくしは、稿をあらため筆硯を新にして、それをこころみるところあるであろう。